

一般質問／文書質問

2月27日は一般質問を行いました。2月28日及び3月2日に予定されていた一般質問は、文書による質問を行う方式に変更し、後日回答書を受理しました。

用語解説

敬老金の支給方法 口座振り込み以外の方法に

対馬 ふみあき (たちかわ自民党・安進会)



問 長寿のお祝いとして贈っている敬老金が、31年度から口座振り込みに変更となりました。手渡ししていた民生委員の負担軽減等さまざまな理由があるとは思いますが、敬老金をもらった実感がないとの声もあります。この敬老金の主眼はお祝いをするのであり、受け取る側もお祝いをしてもらったことに感動するのではないのでしょうか。こうした点や口座振り込みの手続きが難しい方もいらっしゃることを考慮し、支給方法を再検討できないか伺います。

答 平成30年度までは民生委員が対象者宅を訪問し、敬老金を現金でお渡ししていましたが、市職員や民生委員が現金を取り扱うリスクや、現在多くの業務に携わっている民生委員の負担軽減等のため変更しました。在宅の最高年齢の高齢者を市長が訪問した際には、市長が顔を見せてくれたと喜んでいただいている状況等も踏まえ、今後口座振り込みの継続も含め、改めて民生委員の意見等を伺い、検討していきます。

一般質問項目

- ①防災に係る装備について ②敬老金について ③情報担当職員の充実について

立川シティハーフマラソン 完走証の当日発行を高く評価

江口 元気 (たちかわ自民党・安進会)



問 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、立川シティハーフマラソン2020が中止となりました。昨年提案した完走証の当日発行が、今年から実現する予定でした。この点を高く評価するとともに、完走証はどのようなものなのかお示ください。参加賞や、ランネットのアンケートで指摘が多かったトイレについては、見直しがされたのか。また、大会充実のためには協賛金の確保が必要だと考えますが、協賛企業の募集、その効果等について伺います。

答 今大会から当日発行する予定だった完走証は、B5サイズでナンバーと種目、氏名、記録、種目順位、総合順位、気象条件等が記載される形式でした。参加賞は、東京マラソンを参考にタオルとし、くるりんなどが描かれ、立川の特徴を強くアピールしたオリジナルタオルです。協賛の営業活動を積極的に行った結果、昨年比500万円増となり、完走証当日発行や参加賞充実、トイレ10基の増設等が可能となりました。

一般質問項目

- ①読書習慣について ②タバコ対策について ③立川シティハーフマラソンについて ④審議会について

根川緑道のせせらぎ せせらぎ継続へ、水源確保を

桑川 敏男 (たちかわ自民党・安進会)



問 立川駅南口は、西に諏訪神社等の寺社仏閣、南に東西に流れる根川と根川緑道、体育館等のスポーツ施設、東に子ども未来センターがあり、回遊性のあるまちづくりを求めてきました。根川については、下水道の流域編入に伴い、水源となっている下水の高度処理水が使えなくなります。残堀川や多摩川、地下水等から水を引いたらどうかといった話も聞きますが、代わりの水源を確保し、せせらぎ水を継続する見通しについて伺います。

答 根川緑道のせせらぎ水については、子どもたちの水辺の遊び場や自然観察の場としても利用され、休日には多くの方々が訪れる憩いの場として、貴重な資源となっていることから、存続させる方向で現在検討を重ねています。取水先の候補としては、深井戸の新設、既存井戸、多摩川上流水再生センター、昭和用水、残堀川等があります。今後検討結果をまとめ、水の供給方法を決定していきたいと考えています。

一般質問項目

- ①回遊性のあるまちづくりについて ②安心・安全なまちづくりについて ③若年層の健康への意識について

新型コロナウイルス 感染症への危機管理体制は

頭山 太郎 (たちかわ自民党・安進会)



問 新型コロナウイルス等の感染症拡大への対応として、本市では、2月19日に市長を本部長とした対策本部を設置し、体制を強化したとのこと。市の危機管理体制は、防災面ではできつつあるようだが、感染症対策はこれからだと感じています。健康推進課が所管する保健医療行政の感染症対策については、危機管理対策室としてどう対応するのかお示しください。また、感染症への庁内体制をより強固なものにすべきです。

答 市では、新型コロナウイルスの感染症対策本部をすでに設置し、市長、副市長、教育長を含め各部での情報共有と各部の対応について協議し、例えばイベントの中止等について、統一した対応をとっています。また、平成27年に策定した新型インフルエンザ等対策行動計画に、各部で行うべきことが示されています。その計画に準じた形で対応するという方針によって、現在動いています。

- 一般質問項目 ①新型コロナウイルス等の感染症対策について ②台風19号被害を通じての検討結果について ③道路網等の整備について ④環境問題対策について



立川シティハーフマラソンの参加賞

敬老金

立川市敬老金条例に基づき、算定日現在88歳及び99歳以上の高齢者に、長寿をお祝いして1万円を贈呈し、敬老の意を表すもの。

高齢社会の課題解決へ 持続可能な仕組みづくりを

伊藤 大輔 (民主・市民フォーラム)



問 支援が必要な高齢者は、今後も確実に増加します。一方で、支援する側の自治会や民生・児童委員の方々等も高齢化が進んでおり、持続可能な支援の仕組みが必要です。介護事業者や地域包括支援センター、社会福祉協議会、民生・児童委員、自治会等が持つそれぞれの専門分野の情報をつなげることで見えてくるものがあると考えます。市は、報告や申請を待つだけでなく、情報を自ら受け取りに行くプッシュ型の支援体制が必要と考えるが、見解を。

答 民生・児童委員協議会と協力し、健康状態等を確認し、在宅福祉や緊急時、災害時の支援につなげる取り組みのほか、地域包括支援センターと地域福祉コーディネーターを中心とした地域懇談会等でも市民ニーズの把握に努めています。今後身近な交流、相談、活動等の拠点となる新たな場を市民と協働で設置予定です。市民の個々の課題を地域で把握し、必要な支援につなげる仕組みづくりに取り組んでいきたい。

一般質問項目

- ①公共施設の安全対策 ②高齢社会への仕組みづくり

平和学習派遣事業 派遣人数を増やすべき

伊藤 幸秀 (公明党)



問 中学生平和学習派遣事業は、市立の全中学校9校から各校1名の生徒を被爆地広島に派遣し、平和学習を通じて学んだこと、平和の尊さや戦争の悲惨さを自校の生徒や市民へ広く伝えることを目的とした事業です。平成30年度の実施から2年が経過しましたが、この事業についてどのように総括しているのか伺います。また、派遣人数を拡大して、より多くの中学生に平和学習の機会をつくるべきではないかと考えますが、見解をお示しください。

答 昨年8月に生徒を広島へ派遣し、今年2月には立川教育フォーラムで発表しました。平和の尊さ、戦争の悲惨さを、広く市民へ発信するという当初の目的は達成できていると考えています。令和2年度は派遣人数に変更の予定はありませんが、生徒たちの学びをさらに多くの市民に発信するため、大人向けの平和学習での発表や教育広報紙「たち」などに体験記の掲載等、多様な取り組みを企画していきたい。

- 一般質問項目 ①業務改革について ②施設仕様の基準について ③高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施について ④平和教育について ⑤競輪事業について